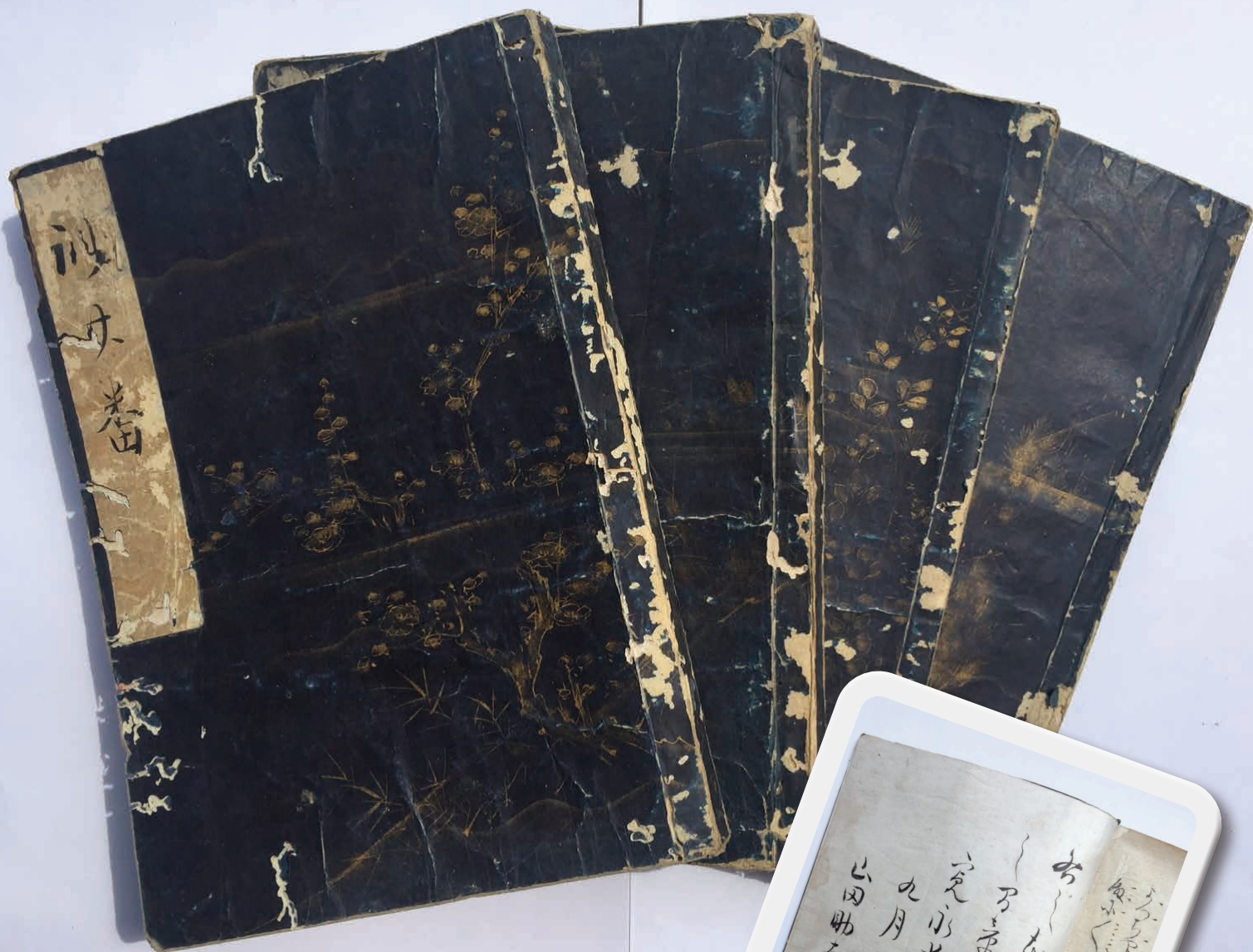


文化情報誌

# たわわ

2020 No.111

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



室町時代の  
平塚の  
文化遺産に触れていく



# 湘南ひらつか能狂言実行委員会

## 顧問 加藤眞悟さん

(重要無形文化財 能楽の保持者)

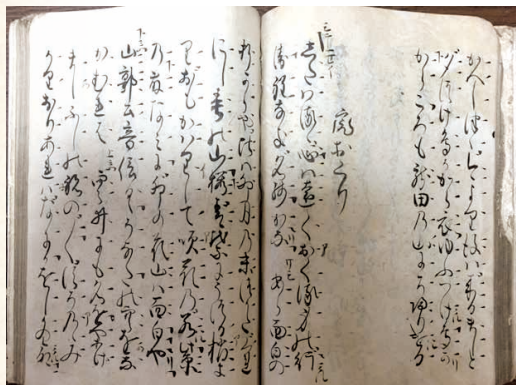
### 「復曲は埋もれた文化遺産の発掘」

能は、今から約700年前、室町時代頃にできたものです。室町時代の後期頃から江戸時代にかけては、謡本（うたいぼん）（能で謡われる言葉、節付けの記号を記した本のこと）を自分で謡って楽しむという文化が栄えていたようです。市井の人たちに向けて作った曲も多くあり、そういう曲も入れると3000曲くらいあるようです。今残されているものは約220曲で、当時公演されていた能の曲でも時代の流れとともに公演されなくなった曲がいくつもあります。

今もそうですが、その時代時代に新しい演目を作ることがあります。しかし、時代に合わせたものはなかなか再現できないことが多いです。そんな中、今回わたくしたちがやろうとしているのは室町時代に作られ、今では公演されなくなってしまったものの一つです。こういった演目を掘り起こすことを「復曲」と呼びます。復曲してみるとその現代的な内容に驚かされます。室町時代の能は庶民にも親しまれていたことから、現代のわたくしたちにストレートに訴えかけてくるものがあります。

復曲は、謡本が残っているものから選びます。

今の言葉で言うと「歌詞」と「譜面」は謡本に残っていますが、昔のものは当て字も多く今の字体と異なり、また節付けの記号の読み方が異なるのでそのままでは読めません。



江戸時代の謡本「虎送」より

台本は演者全員で共有していくものなので、読める字と今の節付け記号に変換していきます。復曲検討会のメンバーであるわたくしと、大学で国文学を専門とする伊海孝充先生（法政大学）、節を再現する技術を持たれた丹羽幸江先生（昭和音楽大学）の3人で地道な共同作業をして台本を作りあげていきます。台本作りは、言葉と節付け記号一つ一つを確認しなければならぬので簡単に完成には至りません。こういったとても時間がかかる作業を続けて復曲能を作りあげていきます。

平塚には地元縁がある曲が5曲もあります。最初に復曲したのは源頼朝の石橋山合戦で活躍した真田与一の能「真田」です。その次は「曾我物語」を題材にした「伏木曾我」（ふしきそが）、「虎送」（とらおくり）です。残る2曲は、これから行う「和田酒盛」（わださかもり）と将来復曲したい「大磯」です。

能の世界においてはみんなが知っている人気のある曲を公演することが多いです。そんな中、地元縁のある曲の復曲

公演を継続して行っているのは全国でも平塚だけです。（公財）平塚市まちづくり財団や湘南ひらつか能狂言実行委員会委員長である石川幹夫さんをはじめとした方々のご理解とご協力があり公演が行えています。平塚に縁のある曲は平塚市の文化遺産です。それを復曲して、市民へ発信するというのが少しでもできたら嬉しいと思います。

また、国立能楽堂で「真田」と「伏木曾我」を再演した際に、全国の多くの方々にも観ていただきました。平塚の復曲能は全て元が確かで有名なお話ばかりですので、これからも全国に発信できたらと夢もあります。

今回の「和田酒盛」は舞台上に役者が8人も出てきます。一般的な能のイメージよりも現代的な芝居のような雰囲気があるかもしれません。このお話は武士の礼儀に関わるところや、恋愛の要素もあって、室町時代の人の考え方や社会に触れることができます。事前に舞台上で物語や当時の歴史の説明がありますので十分に楽しめます。



復曲能「伏木曾我」より  
撮影者：山田浩一郎

わたくしは能のできた室町時代、当時の社会、物事の見え方、暮らし、文化がどんなふうになっていたかを想像するのが楽しいのです。台本の中に書き込まれているその時代の心が自分の中でぱっと感じられる。こういったものを是非みなさまにも感じていただき、復曲能の世界を楽しんでいただきたいと思います。



復曲能「虎送」虎役の能面  
小面（こおもて）



復曲能「伏木曾我」曾我十郎役の能面  
中将（ちゅうじょう）

### 【プロフィール】

#### 湘南ひらつか能狂言実行委員会

平成16年に能の普及を目的に「はじめての能」として、「羽衣」を公演。公演は会場を満席とし、成功を収めた。以降隔年で公演を開催しており、第5回公演から第7回公演までは平塚に縁ある能を復曲した。第8回となる公演は平塚を舞台とした「和田酒盛」が令和3年2月13日に公演予定となる。



撮影者：新宮夕海

#### 湘南ひらつか能狂言実行委員会 顧問 加藤眞悟

平塚市出身で当実行委員会では顧問を勤める。平塚地域で30年以上にわたり市内教育施設を中心にワークショップや講師など能の魅力を幅広く伝える活動をしている。



## ひらつかの文化財を知ろう ②②

### 地名と埋蔵文化財

古代国家は、中国の制度に倣って律令という法律の下、国を国・郡・郷（里）という行政単位に分割して統治する体制を整備しました。

平安時代中期に書かれた辞書に「倭名類聚抄」（わみょうるいじゅしょう）という本がありますが、その中に、全国の郡郷名が記されており、その一部は現在も地名として残っています。平塚市周辺をみると、当時の市域は相模国の大住郡・余綾（よろぎ）郡の一部に所属し、大住郡は16郷から構成されていました。郷名の比定地には諸説があります。このうち、高来（大磯町）、片岡、日田（伊勢原市比々多）、石田（伊勢原市）、大上（大神）、前取（前鳥）、金目は現在まで地名が残っていることから位置がほぼ特定されていますが、地名との類似から推定されている場所もあります。

古代の遺跡を発掘していると、墨で文字を書いた墨書土器が出土します。この墨書の中に、郡郷名を記載したものが散見されます。相模国府域周辺では、四之宮の高林寺・稻荷前A遺跡などから大住（郡名）、真土の六の域遺跡から中島（中島郷）、中原の厚木道遺跡からは川井（川相郷）があります。真田・北金目遺跡群は、古代の金目郷に

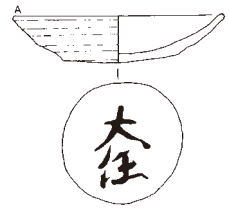
属すると考えられますが、隣接する方岡（片岡郷）の墨書土器が出土しています。国・郡・郷は行政上の都合で分けられたもので、実際には郷の単位を超えた交流が、祭祀などを通して行われていたことをこれらの墨書土器が示していると思われます。

一方で、千葉県などでは、国郡郷名と人名を明記した墨書土器が多数知られていて、『日本壺異記』などの古代の説話をもとに、冥界の閻魔王や鬼神と交流するためと考えられています。紙と筆でその人を召し出し、悪事その他記録する官僚的な冥府では、娑婆世界の戸籍が必要だったのです。

このように、発掘を経て千年以上前の地名に接するとき、歴史に直に触れる興奮があります。NHKの番組で、タレントのタモリさんが地名は土地の記憶なのだから、行政の都合で勝手に変えるべきでないとおっしゃっていましたが反芻すべき言葉だと思います。（文化財保護担当）



土師器皿（はじきさら）  
底の墨書「大住」（平安時代）



土師器皿実測図  
0 10cm

## リトアニアだより (11)

### ユダヤ人を救った外交官 すぎはら ちうね 杉原千畝

日本とリトアニア共和国の交流の歴史を語る上で欠かせない人物が『杉原千畝』。第2次世界大戦初期、ナチス・ドイツの迫害によりポーランドなど欧州各地から逃れてきたユダヤ人に対し、本国の指示に背いてまで日本通過のビザを発給し、多くの命を救った日本人外交官です。

1940年7月、当時のリトアニアの臨時首都カウナスの日本領事館の前に人だかりができました。ドイツ占領下のポーランドをはじめ、ナチスの迫害が激しい地域から逃れてきた多くのユダヤ人が、日本の通過ビザを求めて押しかけたのです。既に欧州には安住できる場所は無く、シベリアから日本を通過してアメリカ大陸に逃れることが、ユダヤ人にとって生き残る可能性を秘めた唯一の道でした。



カウナスにある旧日本領事館  
(現:杉原記念館)の執務室  
(Sugihara Foundation  
"Diplomats for Life")

前年から在カウナス日本領事館領事代理として勤務していた杉原氏は、彼らのビザ発給の承認を得るため、日本政府に何度も電報を送ります。しかしながら、許可が下りることはありませんでした。

一方で、ソ連のバルト三国併合に伴い、リトアニアでは各国の在外公館が相次いで閉鎖される中、日本領事館も一刻も早い退去を命じられてい

ました。リトアニアを離れる期日が迫る中、救いを求めて領事館前に集まるユダヤ人たちに杉原氏は独断でビザを発給することを決めます。

それから約1ヶ月、万年筆が折れ、腕が動かなくなるまで彼は何枚ものビザを書き続けました。それは領事館を退去した後もホテルで続けられ、最後はリトアニアを離れる列車の発車間際までビザを発給したとされています。

その数2,139枚。約6,000人の命を救ったとされる通称『命のビザ』は、杉原氏の勇気と人道性が生み出した結晶として、日本やリトアニアを中心に世界中で語り継がれています。

カウナスでは、杉原氏を絆としてリトアニア人、ユダヤ人、日本人が心を寄せ合い、平和と人道をテーマとして交流関係を育む『スギハラウィーク』を2017年から毎年開催しています。2020年は杉原氏の生誕120周年、『命のビザ』発給から80周年にあたり、10月12日から18日までの会期でコンサートやシンポジウムなど様々なイベントが実施される予定です。



杉原氏が発給した『命のビザ』  
(岐阜県八百津町所蔵)

<参考文献>

杉原誠四郎『杉原千畝と日本の外務省』大正出版, 1999.

宮崎満教『杉原千畝の真実 -ユダヤ人を救った外交官の光と影-』文苑堂, 2007.

# 足もとの星座たち 第11回

平塚駅周辺の商店街に設置された星座絵タイルを紹介する「足もとの星座たち」、第11回は、秋の夜空にひっそりと佇む、やぎ座とうお座を紹介しましょう。

やぎ座は、ギリシャ神話の牧神パーンの姿だと言われています。が、星座絵を見ると（星座絵タイルでは描かれていないのですが）前半分が山羊、後半分が魚の姿をしています。もともとパーンは山羊に似た風貌をしていたのですが、あるとき怪物に襲われたパーンが魚に変身して近くの川に逃げ込もうとしたとき、あまりの慌てぶりに変身し損ない、半分だけが魚になってしまったものだと言われています（なおパニックという言葉はこの逸話からきているそうです）。

やぎ座は、暗い星ばかりからなる目立たない星座ですが、逆三角形の星並びが、空が暗いところであればそれなりに目立つはず。平塚の街の中ですと、見つけるのは難しいかもしれません。やぎ座で3番目に明るい星アルゲディは、前号で紹介したてんびん座のズベン・エル・ゲヌビ同様、肉眼でも見分けることができる二重星として知られています。



うお座星座絵タイル

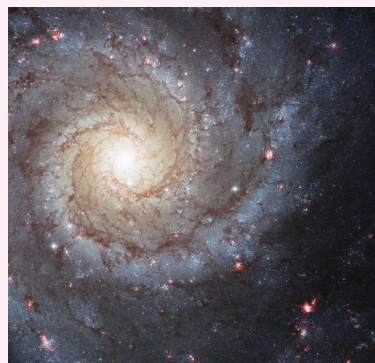


やぎ座星座絵タイル

うお座は、ギリシャ神話の美の女神アフロディーテとその子エロースが魚に姿を変えたものだといわれています。なぜ魚に変身したのかは、やぎ座のパーンと同じ場面で怪物に襲われたからです。星座絵では2匹の魚がリボンで互いに結ばれていますが、これは親子がはぐれないようにするためだったと言われています。

うお座は、105号で紹介したペガサス座をL字に囲むように星がならんでいます。が、大きさの割に明るい星が少なく、やぎ座以上に見つけづらい星座です。うお座にはM 74と呼ばれる渦巻銀河が知られています。しばしば超新星と呼ばれる星が大爆発を起こして明るくなった天体が観測されていて、2002年には茅ヶ崎市にお住いの広瀬洋治さんがM 72に超新星を発見しています。

やぎ座の星座絵タイルは平塚駅北口バスロータリー西の梅屋の建物の南側の細い道に、うお座の星座絵タイルは同じく平塚駅北口バスロータリーの北東、MNビルの周囲に4枚ほど設置されています。ぜひ探してみてください。（平塚市博物館学芸員）



渦巻銀河M74

## 平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。

基金に御寄附いただいた方々

(2020.8.31現在。敬称略)

2020年7月2日

しんわ本人自治会連合会

## お家で楽しむ文化芸術

ご自宅で気軽に文化芸術を楽しんでいただけるように、本市に縁のあるアーティストの皆さんが作成した動画を配信しています。心と体のリフレッシュにぜひお役立てください。



検索ワード

お家で楽しむ文化芸術 平塚

検索

お家で楽しむ文化芸術



発行 平塚市文化・交流課 | 〒254-8686 平塚市浅間町 9-1

電話 0463-32-2235 FAX 0463-21-9756 E-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp

令和2年(2020年)10月15日発行

検索ワード

たわわ 平塚

検索

文化情報誌「たわわ」

